

「1年生の花壇(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

どこの小学校でも、1年生の教室前にはちょっとした花壇があると思う。本校の1年生教室前にも、煉瓦を組んだ花壇があって、毎年いろいろな植物が育てられている。



1年生の花壇の良いところは、教室のすぐ前にあって、いつでも気軽に世話や観察ができるところだろう。花壇の手前に校庭履きの靴箱があり、そこまでは上履きのまま出られる。2年生のテラスの下なので、雨の日でも観察できる。



花壇の前には、朝顔の鉢が並んでいる。これも日本のどこの学校でも見られる光景だろう。最近の教材用の鉢はさまざまな工夫があって、使いやすい。この鉢の支柱は、マジックハンドのように伸び縮み自在なので、朝顔の成長に合わせて高さを調節できる。



今年は「花壇」とは名ばかりで、実際は「農場」になっている。各クラスの担任が、子どもたちの希望を聞いて、何種類かの野菜を植え、子どもたちが世話をしているのだ。これは、各学級で人気のミニトマト。



ミニトマトは、らせん状のおもしろい花序でつぼみをつける。その外側(茎側)から開花し、次々と結果するのだ。送粉は、ハチやアリが行っている。



苗を植えてから、まだ一ヶ月余りだが、もう青い実がなっている。これから夏に向けてが楽しみだ。